



## チャン・テイン君 12歳

新しい家を建てるために父と木を切りに林へ入り、地雷を踏んだ。左足が吹き飛び、右足も破壊された。右足は切断する予定。また、左手の薬指と中指もなくなった。

テイン君一家はタイ国境のパイリンという地区に住んでいる。およそ1年前、それまで住んでいた家が老朽化し、新しい家を建てるために父が林へ木を切りに行った。テイン君も父の仕事を手伝いたいと思い一緒についていった。そして木のふもとにあった地雷（PMN2）を踏み、爆発。テイン君の左足は爆風で吹き飛び、右足も破壊された。さらに左手の薬指と小指も失った。

また、爆発により地雷の破片が刺さり、父親の右目は失明した。現場に地雷原の警告標識はなかったという。事故直後、近くで地雷撤去作業をしていた CMAC（政府系地雷撤去機関）の隊員が爆発音を聞きつけ、すぐに事故現場へかけつけた。そして車でタイの病院へ2時間半かけて搬送した。



事故直後、テイン君は泣かなかったという。今回のインタビューでも地雷を踏んで足や指を失ったことに関して「へっちゃらだよ。」と笑顔で答える。

事故後はタイの病院に4ヶ月入院し、その後自宅に戻った。

テイン君は父、母、弟の4人家族。父の仕事は以前は兵士だったが今は木炭作り。収入は月に平均30\$と少なく、生活に苦労しているという。

12歳であれば通常は小学校高学年のはずであるが、テイン君は事故前も今も学校に行っていない。事故前、両親はテイン君の将来を考え、いよいよ学校に通い始めさせる予定だったという。そんな折に事故が起きてしまった。今は足を失い、自宅から3キロ離れた学校まで行くのが難しい。今回バットンバンの州の都市部に位置する ICRC（義足義手製作・リハビリセンター）で両足に義足を作った後、パイリンの自宅に戻ってからは父親が学校までバイクで送り迎えする予定とのこと。



テイン君の住む村の周りにはありとあらゆる種類の地雷と不発弾が地中に埋まっており、自宅から約200m先から地雷原が広がっている。村の子供たちは地雷や不発弾の危険性を理解できずに、それらをおもちゃにしてよく遊んでいる。これはカンボジアで子どもが地雷・不発弾の被害に遭う1番の原因である。しかしテイン君は地雷や不発弾で遊ぶことがいかに危険なことであるかが分かっていたため、それらで遊んだことはないという。それでも事故に遭ってしまった。

事故後、村では被害に遭ったテイン君とお父さんに同情して助けてくれる者もいるが、障害者である彼らに対して冷たい態度をとる者も少なからずいるという。

テイン君はまだ12歳。現在は落ち込んだ様子もなく元気いっぱいだ。しかしこれから先、障害者である彼を幾多の苦難が襲うだろう。そんなときにも今回のように「へっちゃらだよ。」と言って笑顔でやり過ごして欲しいと願うばかりである。そんなテイン君の夢はお父さんのようになることだ。